

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「体育大会」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像	
生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
学校に対する帰属意識や自己肯定感が乏しく、充実した学校生活を満足に送れない生徒がいる。また、自分の都合がいいように考えて、相手への配慮が足りない生徒もいる。	ルールを守るなど規範意識を醸成させる。また、他者と協働し、集団活動の意義や行動の仕方を身に付けさせ、自己肯定感の向上を図る。さらに、各自の役割を理解させ、主体的に活動できる生徒を育てる。



◆ 取組の具体的内容	
取組を実施する意図及びねらい	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 集団での行動を通し、生徒一人ひとりに集団における望ましい個の在り方を身に付けさせる。</li> <li>◇ クラス・学年・学校という集団への帰属意識を高め、府中東高生としての誇りを育む。</li> <li>◇ 各自の役割を完全に遂行させることで責任感と行動力を養う。</li> <li>◇ 全員が協力してやり遂げたという成功体験によって自己肯定感や自己有用感を持たせる。</li> </ul>	
取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒数が減少し、1クラス10名を切るクラスもあるため、色別の色を3色から2色に変更し、クラス対抗の種目を減らした。そのため、一つの種目に他クラスや他学年が混合するチーム編成にして、競技を行った。【共感的な人間関係の育成】</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が出場しない種目の時、全生徒が教員からの指示を受けることなく、自発的にクラステントに入り応援する姿が見られた。【自己決定の場の提供】</li> <li>・ 普段見ることのできない生徒の頑張る姿や、明るく元気な姿、爽やかな笑顔を見ることができた。【自己存在感の感受】</li> </ul>	

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）	
<p>○ アンケートの結果、「みんなと協力できた」、「他学年とコミュニケーションをとってできた」という意見が多くみられた。また、体育大会後の行事や登下校の様子から、他学年とコミュニケーションを自発的にとる生徒が増えた。さらに、放課後に全体練習を入れたために、団結力も例年より高かった。</p> <p>● クラス対抗競技や種目数が減ったため、不完全燃焼になった生徒も多かった。</p>	